

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 6 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 4 期）
開催日時	令和 2 年 7 月 2 2 日（水） 1 4 時 0 0 分～15 時 1 5 分
開催場所	W e b 会議（高松市役所 1 2 階 1 2 1 会議室）
議 題	（ 1 ） 現 状 を 踏 ま え た 課 題 の 共 有
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	徳倉会長、穴吹副会長、河田委員、熊野委員、笹川委員、田中委員、瑞田委員、中村委員、宮井委員、若林委員
市職員	武田、長谷川、美濃、三谷
事務局	石川部長、西岡課長、三浦係長、松下主任主事
傍聴者	2 人 （定員 2 人）
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

- 1 開会
（事務局から欠席委員について報告）
- 2 議題（1）現状を踏まえた課題の共有

【会長】

今回、初めて、W e b での会議となりますが、事務局にも御尽力いただき、実際、新型コロナウイルス感染症の影響が増えてきた現状で、会議の実施が難しくなってきたので、本当にありがたいと思っております。それでは、議事を進めてまいります。

【事務局】

（配布資料について説明）

【会長】

資料について少し補足をさせていただくと、新型コロナウイルス感染症の影響で対面ということができない中で、メールで様々な御意見を聴取したり、意見を求めるという流れで、その反応ももちろんあまりよいものでもなかったのですが、とはいえ、今まで進めてきた事務局を始め、御提案いただいたものは、正副会長とも協議して出させていただいたものでもあります。

審議経過及び審議結果

今後の会議について、今、事務局からも御説明いただきましたけども、資料のとおり、まずは、現状を踏まえた課題の共有を実施していきたいと思っております。この段階で、配布資料について質問とか御意見があれば、まず、それを伺って、その後に全体の協議をしたいと思っております。

実際、今日が第6回の会議で現状を踏まえてということで、新型コロナウイルスの影響もあり、事業提案が必須ではないというところを踏まえつつ、今、じゃあU40としてどういうことができるのか、何を考えていくのか、どういう方向性にしていきたいのかといった話を進めていきたいと思っております。テーマをどういうふうにするのか、どういうものをテーマにしていくのかということ、今、第4期というところで、前期から続いている委員の方、今期に委員になられた方いらっしゃいます。第4期から入られた方は、進め方というものは、どうしても難しいものがあると思うのですが、現状を踏まえた課題の共有から始めたいと思っております。U40としての課題など、感じているものもあれば、御発言いただけたらと思っております。

【委員】

第3期は会議の回数も多かったというところで、かつ、屋島競技場で日本パラ陸上競技選手権大会が開催され、皆さんの御協力をいただいたということでは、創造都市推進懇談会という存在価値がすごく大きかったのかと思っております。今回、この新型コロナウイルスの関係で、会議の回数が限られているという中では、しっかりとゴールというものを明確にしてやっていく必要があると思っております。

【会長】

第3期の場合は、それぞれのスペシャリティがあるので、子どもだったり文化芸術だったり、それぞれの創造都市推進計画に沿わせてやれていたというのがるので、そういう意味ではやりやすかったなということと、第1期、第2期のものを踏襲できたという意味もあったかなと思っております。

【委員】

前回の第3期に関しては、まず事業が立っていて、どこに興味があって、どういうことがしたいかという振り分けがあったので、他の人たちがどういう意見を持っていたのかということも分かることができました。第4期に関しては、配布資料の概要の中にもあるように、他の人たちがこういうことをやっているという

コミュニケーションが不足しているというのがあって、そこから、どういう課題があるのかということも、まだ見えてこないというのがあるので、よく話をする場面ができたらと思っています。

【委員】

第4期のメンバーも含めて、一度、食事に行ったことがあって、その時にもコミュニケーションが足りてないよねっていう話も出た中で、方向性は私の中で2つあると思っています。1つは、この会議の中でこのまま全員で進みましょうとする、もう1つは、やはり人数が多いのでテーマごとにチームを分けてしまうというのも1つの方向性かなと思っていて、全体で意見を挙げていくという形にするか、チームをいくつかテーマごとに分けてしまっただけ提案をまとめるか、どちらをするにしても、コミュニケーションをどうやって増やすのかがテーマになると思うのですが、これを突き詰めていくことが、今日の会議がまとまることかなと思っています。

【委員】

皆さんと一緒に、やはり、コミュニケーションが不足しているということと、第3期では4つのチームに分かれて、リーダーになった人が、自分がやりたい、進めたいことを中心に引っ張って動いてくれたという感じなので、チームに分かれていくことには賛成なのですが、その中心になっていく人が、自分の仕事とか、業務とかに関わりがあって、動かしていきやすいことを中心にやっていかないと、なかなか、負担も大きいので、難しくなっていくのではないかと考えていて、あとは、それぞれのやりたいこととか進めたい方向をまとめていくという時間が必要かと思っています。

【委員】

「お花畑を作ろう」という自分がやりたいことがあったのですが、今年、地元の農家で実際にひまわり畑を作りました。その時に、他の委員の方とつながることができて、皆さんのフェイスブックとかを見させていただくことはあるのですが、何とかつながって、協力できるところは協力していきたいなと思っています。

【委員】

配布資料を見ながら思い出していたのですが、去年までは、発表会を見せてもらったように、色々と事業を皆さんで進めてこられたというように伺ったのですが、こういう事態になって、議論を中心ということみたいなので、何かをするというのではなくてもよいという認識をしているのですが、具体的にどんな意見交換なのか、テーマってどんな感じなのかなって質問すればよかったのですが、思っていました。先ほどの委員もおっしゃってくださったのですが、意外なところで嬉しい出来事があったことは、私の感想としてお伝えしますが、何かを作り上げるのではなくて、いろんな議論をするというのであれば、皆で関わることができるし、自分の得意分野じゃないところにも話をしたり、得意分野を生かすのもありますし、知らない面を知ることができるので、一緒にやっていくのであれば、皆でいろいろな話をするのもよいなという私の感想、意見として思っていました。

【委員】

皆さんと同じ意見なのですが、フェイスブックとかSNSで、なんとなく、U40のメンバーの方が何をやっているのかを分かっていたので、コミュニケーションを取りたいなと思っていたのと、ただ、自分がどういうふうに関わっていったらよいかというのを、まだ、はっきり分かっていないので、そのあたりが分かると、もうちょっと頑張って入っていこうかなと思います。

【委員】

私も皆さんと違いはないのですが、コミュニケーション不足で、思ったことをちゃんと言えてないような気はしています。それで、先ほど事務局から案内があったように、事業提案が必須の目的ではないということにするのであれば、やはり、ここに集まっている皆さんは、もちろん、各分野得意なところはあると思うのですが、その他にも感じている部分であったり、事業のような形にできていない面白いものを考えていらっしゃる方もいると思うので、その面白いことを、得意分野でなくても皆さんで話し合っ、意見として共有して、それを1つの面白いこととして意見をまとめてもよいかなと思います。

【副会長】

私も第4期から参加させていただいて、第3期の晴れ晴れしい事業を見させていただき、副会長という立場からも体験させていただいたのですが、なかなか、事業化をするということの難しさを感じたというところが、1つの現実の理解で

す。副会長をやらせていただく中で、ずっと、U40で何を求められているのか、何ができるのかっていうことをすごく考えてきたのですが、皆さんが多岐にわたる専門性を持っているだけに何に注力すればいいのか、はたまた、我々の専門性が重要なのか、それとも、高松市の20年後30年後の何か必要なものがあるって、それに対してみんなで考えるのか、そのあたりの整理がもうちょっとできてインセンティブをつけられるようにならないと、いずれにしても話し合いで終わってしまうというところが、やっぱり、とどのつまりなのかなと感じているところです。残り3回をどのようにやっていくのかと考えているところで、やっぱり、そういう短期的なところも必要なのですが、U40という40歳未満の代表として参加しているので、私たちの世代にとってよい高松市になるようなことができるのかという考えも思いながら、非常に悶々としているのが現状です。

【会長】

一旦、事務局へ質問なのですが、事業提案をしないということも踏まえ、今回も入れて残り3回ということで、配布資料でいうと11月に「第4期の振り返り」というところまでいくので、現実的な話をすると、これから各テーマを割り振って、プロジェクトリーダーを作って、そこで取りまとめるとなると、なかなか難しいかなと思うのですね。今日の出席率を見ても、ぎりぎり半数ちょっとというところで、もちろん、時間の関係もあるので、参加できない方も多かったのですが、仕方がないのですが、20名ほどいる中において、テーマを分けて何かテーマごとに出していくというのが大変厳しいとされていて、U40として全体として何か1つの提案みたいなものができる形が、ぎりぎり間に合うかどうかというところですが、振り返りのところがイコール提案になるかもしれないですが、この提案みたいなものを形として作らないといけないのか、それとも、こうまとめたけれども、ここまでしか至りませんでしたみたいな報告書のレベルでもよいのかっていうところは、事務局の方で何かお考え等はあるのでしょうか。

【事務局】

事務局としては、意見や集約といった形までまとめていただく時間というのが、今回厳しいと思うので、そこまでは求めていません。提案の形として、意見を挙げていただくという形でも構わないと考えております。

【会長】

ありがとうございます。かなり柔軟に対応していただけるという前提で、皆さんと考えていきたいのですが、キーワードとしては、今、ずっとお話を聞いていると、まず、コミュニケーションが足りないという問題が、複数の委員の方々から挙がっていることと、いくつかチームを分けてはという話があったと思うのですが、チームを分けたときに何か上手くいきそうな方向性というのは何かありますでしょうか。先ほど、私からチームを否定するような発言をしましたのが、それでも3、4名のチームを複数作って進めるといったイメージが何となくあればお願いします。

【委員】

私からは、先ほど方向性は2つあるとお話させていただいたとあっていて、チームで分けるか、全体でやるのであれば、他の委員のお話にもあったように、意見交換というところや情報共有だったりする方向性であるので、もし、ある程度、先ほどの事務局からの話でもありましたけども、大きな成果としてアウトプットを、ぼやっとしたものでもよいのであれば、全体で議論していくという方向性で大丈夫だと思います。もし、アウトプットが形になるのであれば、チーム内での研究や会議以外のところがないと難しいとあっていて、チームを分けるか分けないかというよりは、チームを分けたほうがテーマを形にしやすいということで、チームを分けなきゃいけないとと思っているわけではないです。

その上で、もし、チームを分けて活動をしていきたいということであれば、御手数ですが、事務局と正副会長の方で、このテーマで議論していくということ、今日の会議も踏まえていくつか出していただいて、割り振りまでしていただいて、第7回までにこのテーマの意見集約をいくつか出して来てくれというスケジュールでやらないと間に合わないと思っています。多岐にわたる方がいらっしゃるの難しい部分もあって、もし、テーマを分けるのであれば、今、市役所が議論をしてほしいテーマ又は高松市として議論をしていった方がよいと委員が考えるテーマに分け、チーム編成を断定してしまうぐらいのペースでやっていかないといけないと思います。そこで、先ほどお話をしましたが、自らの立場だったり、これからのやりたいことを持ってらっしゃる方もいらっしゃるの、それはこの会議の皆さんの意見にもよってくると思うので、チームを分けたほうが動きやすいというところという、市役所が取り組みたいと思っているテーマ又は委員がやりたいと思っているテーマを出して、それで班分けをすることが必要になると思います。

【委員】

チームで分けたときに、前回の第3期ではみんなで意見を出して、そこからチームを分けていったので、私もリーダーをやらせていただいたときに、知識などのところで補っていただき、進めやすかったところがあります。チーム分けをすると、今の段階で、AチームやBチームに分けてしまうと、おそらく、みんな思っていることややりたいことがバラバラなので、進まないのかなと個人的には感じています。チームを分けるということ自体は、方針次第なので、アイデアや提案ベースのチームなのか、U40全体で考えるのかというのは、方針によって変えていけばよいのかなと思いました。

【会長】

今日、話し合わないといけないポイントとして、実際、残り4か月、第4期U40として何をしていくかというところを話し合っているのですね。そのためには、全体で話し合う方がよいのか、第3期で上手くいったチームとして進めていくのがよいのかというのが出てくると思うので、そこを消去法的にチームというものを選ぶのかどうかというところを伺っていましたが、ちょっと、チームは厳しそうかなと。実際に、第3期でチームを決めるときも、かなり丁寧なコミュニケーションをして、それぞれのやりたいところを集約していったのですね。100近い案がある中で、5つぐらいまでに集約して、皆さんコミットしていただき、時間をかけてやり取りをした結果、チームは上手くいったということがあるので、第4期は今日を含めて3回しかないのでは、チームというのは難しいのではないかなと思います。

じゃあ、チームでという形で出来ないとき、残りの4か月で何をしていくのかというと、委員からも、事務局と正副会長の中で何か考えたらどうかという御意見があったので少し補足をすると、実は既に、事務局と正副会長とでやり取りをしており、事務局からは「コロナ禍での創造都市のあり方を話し合ってもらえないか」という意見をいただきました。いただいたのですが、正副会長の3人ともに、そこには違和感があって、コロナ禍の最中で創造都市のあり方といっても、「家から出ない」とか「会食しない」とかばっかりが出て仕方がないと思います。実際に、今、体験していないことに対して、どう想像力を働かせるかということ、これこそ、コミュニケーションを取っていないので難しいかなと思っています。それを経て、今日の議論に至っているという現状があります。

その中で、じゃあ全体で何を話し合ったらよいのかというところで、皆さんの

お話を伺う中で、私としては、今のU40が高松市に対して求めているもの、委員として、40歳未満の市民として、市に対して求めるもの。求めるだけでは駄目で、自分たちの役割、個人も含めてですが、「自分たちが市に対して何を求めるのか」、「自分たちが市に対して何ができるのか」の2軸で、話し合っ、ある程度形づけるようなイメージがよいのではないかと考えています。

【委員】

よいと思います。私がU40に第4期で入ってから、話を聞くことが多かったのですが、じゃあ、具体的に自分は何をしたらよいのかってというのが、今一つ分からないまま現在に至っているので、自分たちが市に対してできることを出して、それを市の方に選んでもらうっていう方向がよいと思います。

【委員】

私もよいと思います。どんなことが具体的にあるのかということが、想像はしにくいですが。

【会長】

大事な点は、自分たちの役割だけでなく、求めるだけ点を付け加えたらよいと思っています。団体や個人の活動を通じながら、市に対して、こういうことを求めています、逆に、自分たちもこういうこともできますよと。それが合致すれば一番面白いのですが。

【委員】

そしたら、自然とコロナ禍で大変になっているようなところの要望も出てくるかもしれないと。

【会長】

ケースによったら、もちろん、そういうところも出てくるし、コロナ禍があってもなくても、こういうことはできるし、してほしいということも逆に出てくるのではないかと考えています。具体的なところで言うと、コロナ禍の前から活動していて、オリンピック・パラリンピックも延期になりながら、来年また、パラの大会を高松でやるとなったときに、競技者としてできることとか、やってほしいことって、割と見えやすかったりするものではないでしょうか。

【委員】

そうですね。来年4月という新たなゴールができたので、そこに向けてできることというのは、色々あるのかなとは思いますがね。

【委員】

私も、求めるものと、こちらからの何かの提案の話し合いが出来ると、皆さんの意見も出やすいのではと思っています。今いる委員のことや活動していることの共有が出来るとは思いました。

【副会長】

私も特に異論はないです。ただ、市役所の中にこういうことをやってほしいのだというお題を出していただくというのが、1つの要素としてあるべきだと思うのです。1つの要素としては、20年後、30年後を考えると、高松市は、こういう様子になっていますと、ポジティブな面ばかりでなく、ネガティブな部分やいろいろなことが関わってくる中で、どういうことをしないといけないのか。多分、こっちよりも重要なことがあるはずだと思うので、そういう見たくないようなところ、難しいような話も、是非、出していただいて、それに対して僕らが、どう貢献できるかということ考えたほうが、さらに熱量は上がるなと思います。それこそ、私たちがこのまちに住み続けるために、必要なことになってくるので、それであれば、本業もU40のどっちも一生懸命やって熱量が上がってくるのかなあと思って、そのお互いのスタンスの熱量の持ち方というのは、上手く上げていければいいなと思いますね。

【会長】

私は、総合計画の委員をさせていただいたので、少なくとも、平成35年度ぐらいまでの構想を作っています。柔らかく作りましたが、現実に減っていくのかということもあります。これは、どこまで話を広げればいいのかという話にもなってくるのです。テーマを決めるとなったときに、そこは避けては通れないというところと、現実的にあと3回で終わらすのか、ある程度、第5期にバトンを渡すための議論をしていくのか。今の御意見は、第5期につなげるような土台の議論をできるようにしておいた方がよいというイメージですよね。

【副会長】

第4期の中で完結できるものがあるに越したことはないのですが、結果的に持

ち越さないといけないものがあるならば、それはそれで、第5期を受ける方が、それに対してやりたいかという明確なお題になれば、それはそれでよいのではないかと思います。何のためにU40に参加しているのかっていうところを改めて再定義しないといけないと思っています。

【会長】

まとめると、今のU40が、今の高松市というところと将来の高松市というところの2軸で考えていき、話し合う方が、よりベターなのかなと思っています。

【副会長】

絞る1つの方法として、市の未来予想図にみんなが関わってくる問題という方が、議論をしやすいかなと私は思います。その中に、複雑にいろいろな皆さんの専門性を活用して解決するアイデアを出していくとできれば面白いなと思います。まずは、我々が勉強するところから始めていかないと。

【会長】

それでは、そのあたりを今日、どこまで話をするかですね。一つの方向性として、今、出てきたのは、我々U40として、市に求めるものとは、我々が出来ることとはという2軸で話をしていく、かつ、今、現在の部分もそうだけでも、将来の高松市の様々な問題に対して、どういうアプローチをしていくのかというようなもの。U40の人が20年後ということは、大体40歳から60歳ぐらいの年齢の中で、自分たちが、どうまちに関わるのかというところを話し合うみたいな、そういうイメージですかね。

【委員】

確かに、いろいろな意見がある中で、市に対して求めること、プラス自分が出ること、さらに、今と未来の高松の在り方という4つの視点の中で進めていく方が、分かりやすいと思います。これはU40だけでなく、別のことでも、積極的に参加できるかどうかは大事なことなので、そういう点では、ここで話をしていくというのは、ここに参加している皆さんの自分事に少なからず関わってることなので、賛成です。

【会長】

となると、コミュニケーションや議論を深めるとなると、今、示していただき

ましたが、「現在」と「未来」という2つの軸があって、横軸として「自分が出る
ること」、U40が出ることでいいですが、もう1つが「高松市に求める
こと」の4つの枠を作って、それを各自、埋めて来てもらったものを基に話し合
うということを次回すると、議論がしやすいのではないかと感じます。

今日の参加委員に伺いたいのですが、今回の会議のようにただと話し合う
方がいいのか、今、私が言ったようなシートを作ってもらって、もちろん、欠席
の方にも意図を説明した上で作ってきていただいたものを、次回の会議の前に全
員で共有して、そこから、もし、対面で出来るのであれば対面で話をして、厳し
ければ、こういう形で議論をするような形がよいのかなと思ったのですが、いか
がでしょうか。

【委員】

皆で集まる時間を大切にするのであれば、事前に資料をいただいて、それを書
き込んで、それを皆さんで共有した上で集まって会議をするという方が、有効活
用できるのではないかと思います。

【委員】

今の話であれば、私も事前に作った方がよいかなと思っていて、話されること
も整理されますし、ここで全員の意見を聴くだけで1時間かかるので、事前に作
成した方が、有意義になるのではないのでしょうか。

【委員】

やはり、時間がかかってしまうと思うので、一度、書面を使って書いて反映で
きるようにした方が、有意義なのではないのでしょうか。

【会長】

全員に伺いますが、今までの議論の中で、仮のタイトルとしては、「今のU4
0が市に対して何を求めるのか」又は「自分たちが何をできるのか」というの
を、今の軸と将来、仮に「20年後」としておきますけども、それをテーマとし
て話し合う。それを最終の11月にまとめていくという方向で、流れとしてはど
うでしょうか。今、出席の方で異論や、これを足してほしいなどあれば、是非、
お伺いしたいのですが。

なさそうですかね。では、ワークシートのようなものを作成し、記入していただ
いて、各自、事前に送って共有しておく。内容について「ちょっと聞いておき

たいこと」など、事前にやり取りできる部分は、メール等でやり取りした上で、9月の日程で、状況が許せば対面でしたいなと思いますけども、現在のような状況であれば、Webになるかと思えます。県や市がどういうものを発令しているかによりますが、ある程度、落ち着いてから、対面で3密を防ぐような形で開催するような流れにしていきたいと思っています。

事務局にもお願いしたいのですが、今の議論の方向性を聞いていただいたと思うのですが、9月までのところで、ある程度、形を作っていきたいと思っているのですが、事務局としてはいかがでしょうか。

【事務局】

事務局としては大丈夫です。確認したいのですが、「現在」と「未来」を比較して課題を挙げて、それに対して「自分たちが出来ること」と「市に求めること」ということでよろしかったでしょうか。

【会長】

比較はしないですね。「今ある問題」と「予測されている問題」が一致しているものもあれば、つながっている問題もあります。それは、それぞれの委員が「今こういう問題があるだろう」と思っていることを記載します。

1点お願いしたいのは、未来の部分に関しては、勉強しないといけないという発言もありましたので、第6次総合計画などで人口推移も3パターンぐらい載っているの、そういった情報のあるURLを委員の皆さんに共有していただいて、おそらく、こういう高松市になっているだろうという予測なり、直近のこういう施策があるというのは、市のホームページにも載っていると思しますので、共有をしていただきたいです。

【事務局】

分かりました。

【会長】

ありがとうございます。あと、事務局から何かありましたら。

【事務局】

こういった状況の中で、なかなか、皆さんにお集まりいただくことができずに、当初予定していたところとは違ったところで、果たして上手く進んでいくの

かといった不安感もあったのですが、会長を始め、各委員の皆様のおかげで集約ができたと思います。こういったところで、20年後の高松市の未来の在り方といったところを今の課題とリンクさせて、いろいろと御意見を頂けたらと思っていますので、今後とも御協力をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

【会長】

それでは、以上で閉会とさせていただきます。

3 閉会

(事務連絡の後、閉会)